

令和7年度

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

西麻植小学校
「学力向上実行プラン」

豊かな心と確かな学力をはぐくむ学習活動の創造

学力向上推進員
森 浩子

委員 橋本浩司(校長)・長谷美穂(教頭)・山林諭未(1年担任)・福井陽菜(2年担任)・近久美穂(教務主任・3年担任)・白岩晃資(4年担任)・井内洋介(5年担任)・森浩子(研修主任・6年担任)・井後亜弥子(特別支援担任)・工藤恵子(特別支援担任)・河野恵美(特別支援担任)・近藤正二(専科)三木由里(養護教諭)・栗田幸奈(支援員)

校長

橋本 浩司

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、意見交換等、機会を捉えて、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組み、漢字の読み書きや計算など、基礎・基本の内容のおおよそを身につけている。 ●学習内容の定着に差があり、学力の差が大きい。 ●身につけた知識・技能があまり活用できていない。	・漢字・言葉・計算など基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。 ・話や文章を正確に聞いたり、読んだりすることができる。 ・身につけた知識・技能を家庭学習や生活の中で活用している。	・漢字・計算の課題を繰り返し行うとともに、ミニテストを行う。 ・「視写」「聞き取りテスト」を行い、言葉の基本や「聞く力」「読む力」を付ける。 ・タブレットのドリル活用により、「個別最適な学び」に導く。 ・自主学習や日記、作文や新聞作りなど、表現の場を設定する。	・ミニテストの実施により、児童自身、学習した内容や学習事項のポイントを確認し、習得を図る。 ・タブレットのドリル学習による効果が見られるので、知識・習得につながるよう今後も活用していく。 ・自主学習では、ことわざや四字熟語集めなどの機会を設け、言葉への興味関心を広げていく。	・ミニテストを繰り返し行うことで、7割程度は、定着している。 ・タブレットのドリル学習に慣れ、個別に課題を選び、個別学習に活かしている。 ・自主学習では、漢字や計算練習など固定化された学習になっている。	・活用に課題があるので、自主学習や日常の中で発揮できるよう、方策の一つとして、阿波っ子タイムズを毎週木曜日に読むなどして活字に親しませる。 ・自主学習として、本や新聞など記事を読んでまとめる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目的意識をもって、自分の思いや考えを話したり書いたりする意欲が育ってきている。 ●語彙の広がりが少なく、スピーチや作文などの表現力に課題が見られる。	・目的意識や相手意識をもち、相手に伝わるように話したり書いたりすることができる。 ・根拠や理由を明らかにしながら話したり、友達の意見と比較して聞いたりすることで自分の思いや考えを深め、表現する(発信する力)ことができる。	・「誰に」「何を」「何のために」をはっきりと分かる言語活動の場を設定し、発問・指示の工夫を行う。 ・他者との交流や体験活動により、考えを広げ、相手を意識した表現ができる場(発信の場)を設定する。 ・「話す・書く」活動において、国語科教科書「ことばのたからばこ」を活用させる。	・自分の考えを言語だけでなく絵や図を使って整理し、思考の流れを説明する。 ・新聞やパンフレットなど発信する場では、タブレットを活用する。 ・「ことばのたからばこ」をより日常的に活用するよう努める。	・相手意識や目的意識をもたせたことで、伝えるための工夫ができ書く力につながっている。 ・タブレットの活用により、協同的な作業がやりやすくなった。 ・詩や心情を表現する場面で、「ことばのたからばこ」の活用をしている。	・短文づくりや4コマまんの吹き出しに書くなど、「ことばのたからばこ」の活用場を具体的に設定する。 ・読書時間を設定し、本に親しませることで語彙を増やす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題は真面目に取り組むことができる。 ●「もっと知りたい、調べたい」という意欲や自分なりのめあてをもって学習に取り組む児童が少ない。また、意欲はあっても、具体的な学習の仕方が分からない児童がいる。	・これまでの経験をもとに新たな学習課題を自ら見つけ、「もっと知りたい、調べたい」という意欲と目的意識をもち、主体的に学習に取り組むことができる。	・授業導入時に前時の振り返りを行い、授業終末には視点を示し、記述をさせる。 ・ICTを効果的に活用する。 ・学習したことを他教科、行事などに関連させ、つながりを持たせる。 ・「家庭学習の手引き」を活用して、自主学習ノートの充実を図る。	・何が「難しい・分かった・分からなかった・次につなげたい等」具体的にふりかえりができるよう、観点を示す。 ・タブレットをより効果的に活用する場を設定する。 ・学びを生活の中の事象と結びつけ、自主学習などに生かす。	・単元の振り返りはほぼできているが、「もっと知りたい」という意欲にはつながっていない。 ・各学年の発達段階に応じてタブレット操作ができるようになり、学習ツールが増え、意欲的に取り組んだ。	・学びを生活の中の事象と結びつけることを常に意識化する。(各教科で学んだことを生活の場で見つける) ・家庭学習にタブレットを活用し、個に応じた課題選択をさせる。